

2019年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社
常務執行役員
北畠 一明

2019年2月7日

2019年3月期第3四半期の決算概要について説明いたします。

出荷遅延の正常化により、業績は回復基調

(億円)

	17年度Q3累計	18年度Q3累計	増減率	為替除く増減率
売上収益	4,370	4,436	+2%	+2%
売上総利益	2,386 (54.6%)	2,422 (54.6%)	+1%	+2%
一般管理費	1,252 (28.7%)	1,320 (29.8%)	+5%	+6%
研究開発費	289 (6.6%)	360 (8.1%)	+25%	+25%
その他収益費用	20	44	-	-
営業利益	866 (19.8%)	785 (17.7%)	-9%	- 8%
調整後営業利益	976 (22.3%)	912 (20.6%)	-7%	- 6%
税引前利益	856 (19.6%)	750 (16.9%)	-12%	
当期利益	770 (17.6%)	565 (12.7%)	-27%	

期中平均レート	USD	112円	111円
	EUR	129円	129円

- 売上収益 : 全カンパニーでプラス伸長。心臓血管は出荷遅延から回復、ホスピタルは堅調に推移
- 調整後営業利益 : 売上収益の回復に伴い、減益幅が縮小
- 税引前利益 : 前年同期の為替差益 (2億) に対し、今年度は差損 (-32億)
- 当期利益 : 前年同期は米国税制改革による一過性のプラス要因 (151億)

 TERUMO

2/22

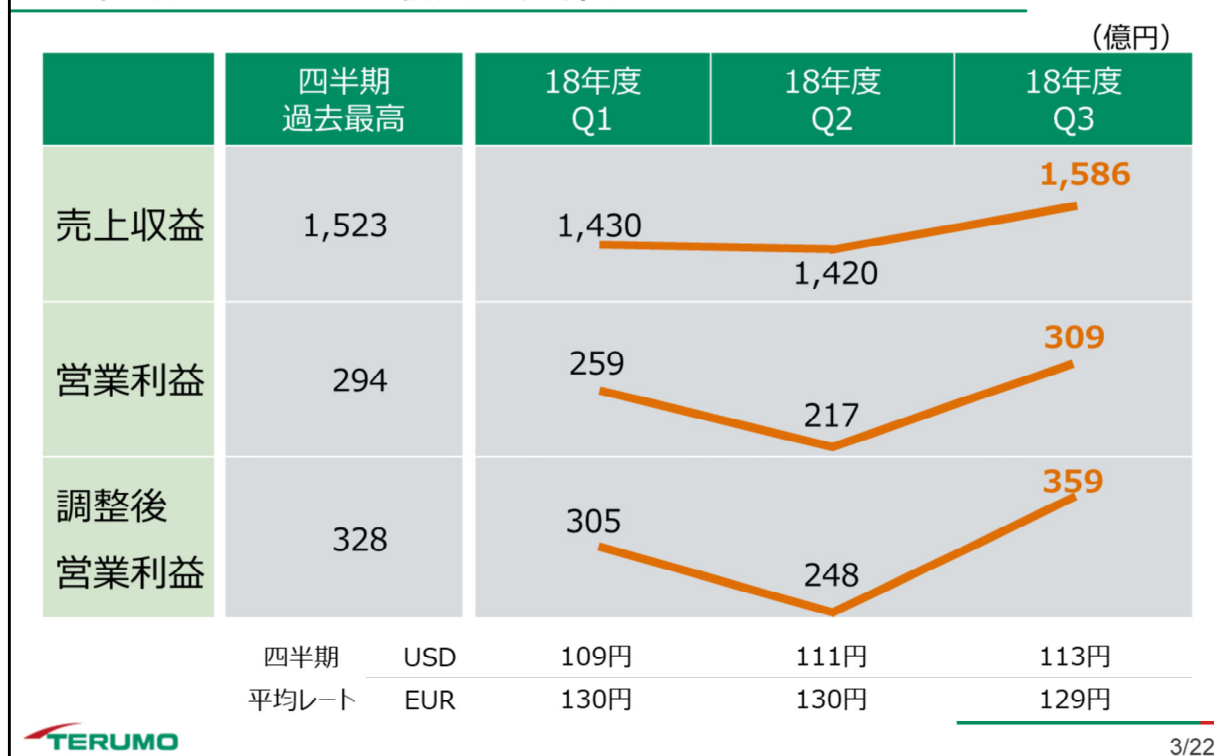
まず決算総括です。

愛鷹工場の出荷遅延が正常化し、第3四半期は好調なパフォーマンスとなりました。その結果、累計の数字も回復してきています。

売上収益は、上期までは伸長率0%でしたが、第3四半期累計では2%のプラスに転じました。売上総利益がプラスとなり、その他の利益項目も前年比のマイナス幅が大きく縮小しています。

ただし当期利益のみはマイナス幅が拡大しています。これは前年の第3四半期に米国税制改革により一過性の大きなプラスがあったためで、それを除けば当期利益もマイナス幅は縮小しています。

四半期として過去最高を更新



このページは第3四半期の業績を詳しく説明するためのもので、今年度の業績を四半期ごとにまとめています。

出荷遅延の影響で第2四半期は大きく落ち込みましたが、第3四半期には売上、営業利益ともに第2四半期に比べて大きく伸びました。

一番左端は四半期として過去最高の数字を示していますが、この数字と比べても、売上収益で4%、調整後営業利益で10%、それぞれ上回り、四半期として過去最高を更新しました。

下期業績予想通りの進捗

(億円)

	18年度 下期業績予想	18年度 Q3実績	進捗率
売上収益	3,150	1,586	50%
営業利益	600	309	51%
調整後営業利益	670	359	54%
当期利益	440	220	50%

為替レート	USD	105円	113円
	EUR	130円	129円



4/22

このスライドでは、下期の業績予想の進捗を示しています。

業績予想の進捗としては売上収益と当期利益はちょうど50%、営業利益と調整後営業利益は50%を若干上回っている状況です。

例年、第4四半期は販管費と研究開発費の支出が膨らむ傾向にあり、また、今年も欧州MDRに関する費用が発生し始めますが、この第3四半期のモメンタムを維持して、通期の業績予想の達成を目指したいと考えています。

調整後営業利益：調整額

(億円)

	17年度Q3累計	18年度Q3累計
①買収無形資産の償却費	105	110
②一時的な損益 ※	5	17
調整額	110	127

※調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整項目	調整額
ニューロWEB マイルストーン支払い引当計上 (-20)	+20
和解金受取 (+23)	-23
フェルトリコ工場災害保険金受取 (+11)	-11
ベンチャー開発投資除却 (-10)	+10
固定資産除却損等 (-6)	+6
買収アドバイザー費用等 (-4)	+4



5/22

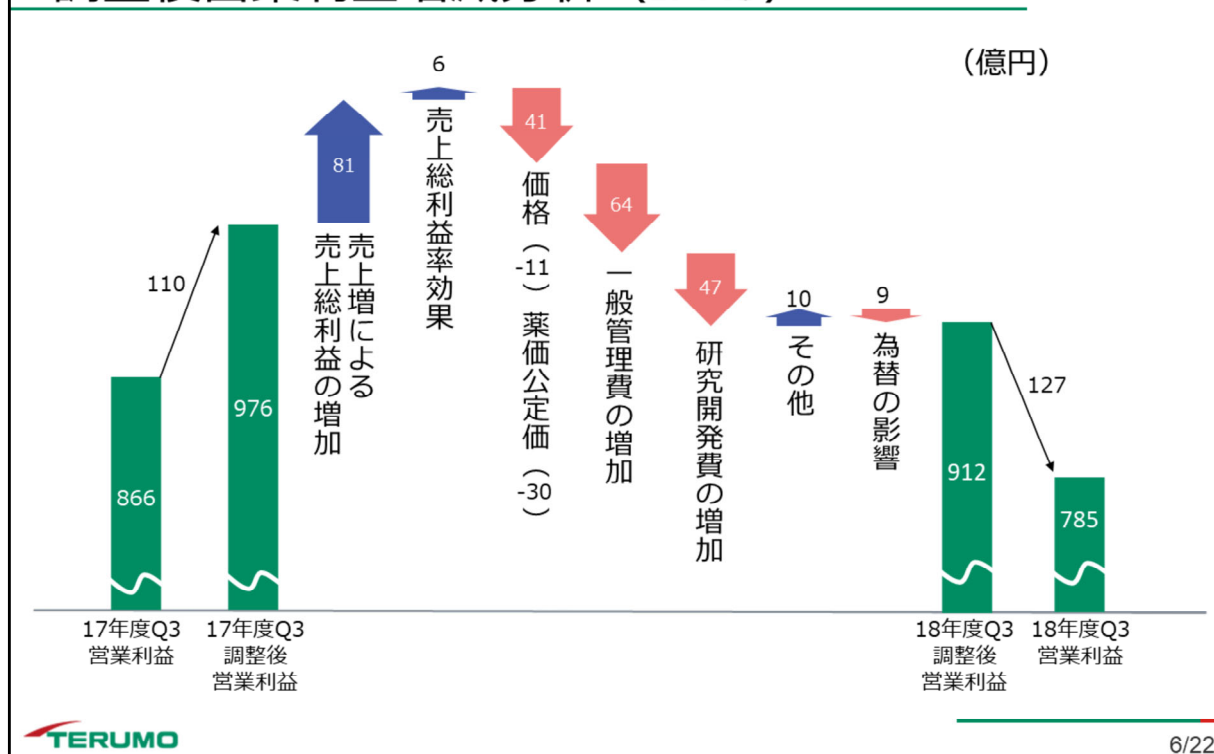
調整後営業利益の調整額です。

調整額の大半は①「買収無形資産の償却費」です。

②「一時的な損益」の明細は右下に示しており、上の4つは上期決算発表時にご説明済みのものであります。ただし、一番上の「WEB」に関しましては、12月末に米国で販売承認を取得したことを受け、引き当てを3億円積み増しています。このマイルストーンは1月に支払い済みのため、これ以上の増減はありません。

新しく加わった下の2つですが、1つ目の「固定資産除却損等」の主なものは、血液システムカンパニーでベトナム工場への生産移管に伴う富士宮工場での設備除却です。一番下の「買収アドバイザー費用」の主なものは、エッセン・テクノロジー社買収の費用です。

調整後営業利益増減分析（IFRS）



調整後営業利益の増減分析です。

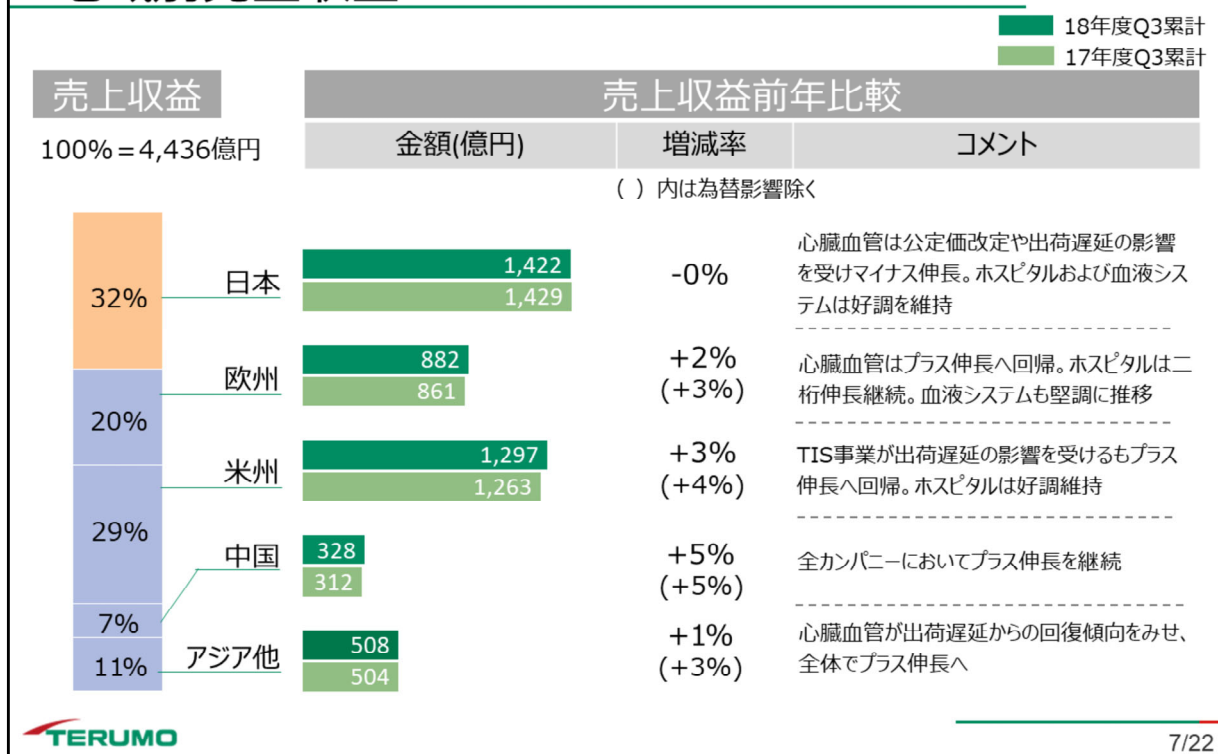
「売上増による売上総利益の増加」「売上総利益率効果」が、業績の回復により上期と比べて大きく改善しています。「売上増による売上総利益の増加」は、上期までで14億円でしたが第3四半期で81億円になりました。「売上総利益率効果」も、上期までで-7億円でしたが第3四半期で6億円になりました。

「薬価公定価」は従来と同じレベルの30億円です。「価格」は、上期までで3億円でしたが第3四半期で-11億円となりました。これは、価格下落の一番の要因であるTISの売上が順調なレベルに戻ったことに起因します。

「一般管理費」と「研究開発費」について、上期は年間計画に比べて大きな数字でしたが、前年2017年度は下期に費用支出が大きかったことから、今年度第3四半期の増加分は小さくなっています。

「為替」は、上期まではプラスマイナスゼロでしたが第3四半期に入り、欧州、米州、アジアいずれの地域でも新興国通貨の下落があり、-9億円となりました。

地域別売上収益

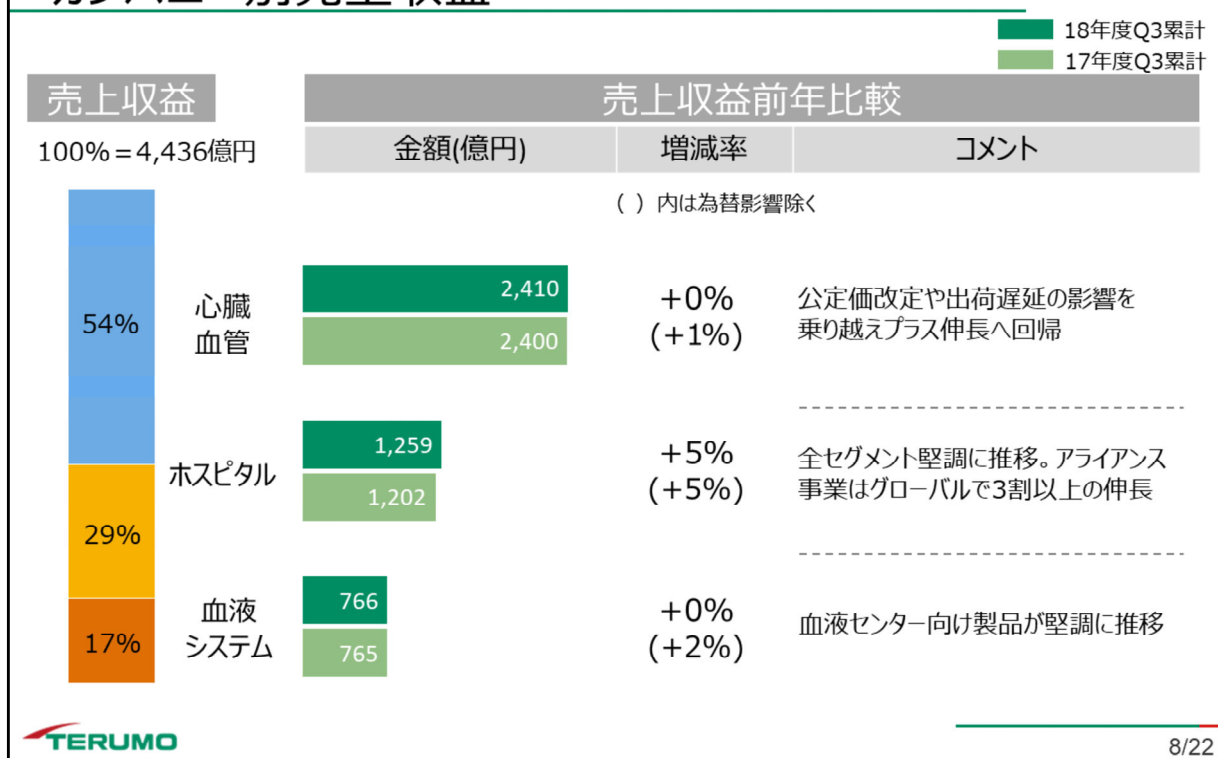


地域別の売上収益です。

日本は、ホスピタル、血液システムが引き続き好調であることに加えて、心臓血管が回復してきたことから、第3四半期だけ見ると前年比プラスに転じ、累計でも上期までの-2%からゼロになりました。

海外は、これもTISの回復を受け、いずれの地域もプラス幅が拡大しました。ただし、中国を除くいずれの地域でも新興国通貨の影響で為替がマイナスに作用しています。

カンパニー別売上収益



カンパニー別の売上収益です。

心臓血管は、売上の回復により、上期までの-3%からプラスに転じました。

ホスピタルは、引き続き好調を維持しています。

血液システムは、血液センター向け製品が堅調に推移しましたが、3カンパニーの中で最も為替の影響を受けました。この為替に関しては大きく2つの要因があります。1つは血液バッグで新興国の売上が大きいことから新興国通貨の影響を受けやすいこと、もう1つは、米国に主要工場があることから、ドル生産・ユーロ販売の部分が大きく、ユーロ安の影響を受けやすいことです。

心臓血管：売上収益はプラス伸長へ回帰

	17年度 Q3累計	18年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
()内は為替影響除く					
売上収益	2,400	2,410	+0% (+1%)	TIS : 国内の公定価改定の影響 出荷遅延から回復傾向	-20
				ニューロ : 二桁伸長を継続	+32
				CV : 次期血液モニターへの切り替え遅れ	-2
				血管 : 国内における直販移行に向けた調整	-1
調整後 営業 利益 (率)	634 (26%)	580 (24%)	-8% (-8%)	研究開発費を増加させながらも販管費をコントロール。 売上収益の回復に伴い、減益幅を縮小	

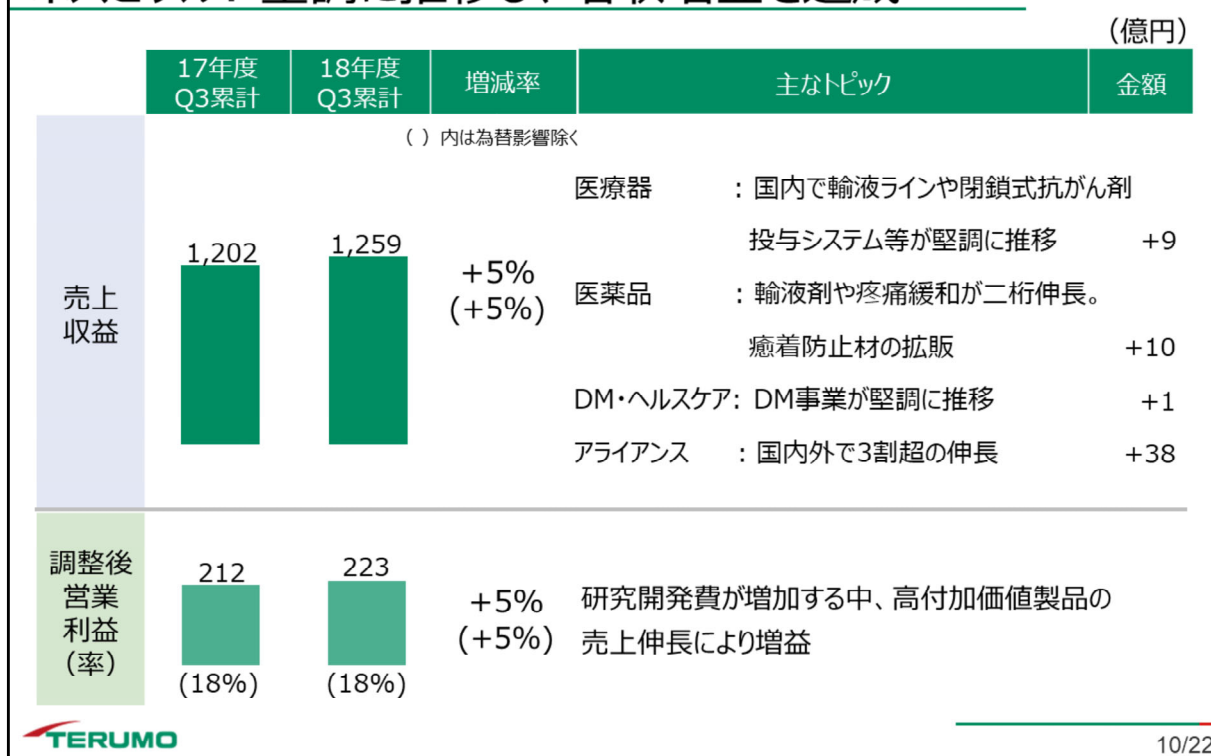
心臓血管は、売上収益がプラス伸長に回帰しました。

TISは、上期までは-61億円だったものが第3四半期は-20億円になり、大きく縮小しました。また、海外だけを見ますと、前期比プラスに転じました。

ニューロバスキュラーは、脳動脈瘤治療のハイドロゲルコイル、脳梗塞治療の血栓吸引カテーテルが牽引して、二桁伸長を継続しています。また、12月末には新製品「WEB」の米国での販売承認も取得しました。

調整後営業利益は、研究開発費は計画通りに支出しながら、販管費は第2四半期以降コントロールしており、売上収益の増加と併せて、減益幅が大きく縮小しています。

ホスピタル： 堅調に推移し、増収増益を達成



ホスピタルは、国内外、全事業にわたって好調に推移しています。その中でも特にアライアンス事業が大きく伸び、国内外で3割超の伸長です。

調整後営業利益も、ホスピタルとしては非常に高い水準の18%を維持しています。

血液システム: 計画に沿った堅調な推移

	17年度 Q3累計	18年度 Q3累計	増減率	主なピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上 収益	765	766	+0% (+2%)	血液センター : グローバルで血液自動 製剤化装置などが牽引	+13
				アフレス治療 : 昨年度の特需の影響を受け マイナス伸長	-14
調整後 営業 利益 (率)	122 (16%)	109 (14%)	-11% (-8%)	販管費および研究開発費の増加に伴い減益	

血液システムは、アフレス治療における前年度の特需の影響によるマイナスを血液センターでカバーして、プラスの伸長となりました。

調整後営業利益は、販管費では米国レイクウッド工場の効率化プロジェクトで費用が先行し、研究開発費では政府関係のプロジェクトで支払いが先行しているため、前年比マイナス伸長になっています。第4四半期にはこの先行している部分の調整が進む予定になっていますので、全体として計画に沿った推移です。

ただ、先ほども申し上げた為替の影響を受けているため、マイナス幅が想定よりも大きくなっています。

主なトピックス

- 5製品がグッドデザイン賞を受賞。テルモとして23年連続の受賞(10月)

全社



癒着防止吸収性バリア
「アドスプレー」



粘度可変型流動食
「マーメッドワン」



ポータブルインスリン用輸液ポンプ
「メディセーフェイス」



グルコース分析装置
「メディセーフットプロII」



手首血管からの
下肢血管治療システム
「R2P」

- 米FDAよりプレミックス製剤のGMP適合認定を取得(11月)
- PTCAバルーン「Ryurei」を日本で発売(12月)
- 薬剤充填用注射器「PLAJEX」採用のバイオシミラー、欧州で市場導入(12月)
- 脳梗塞用・血栓吸引カテーテル「SOFIAFLOW Plus」、国内における製造販売承認を取得(12月)
- 脳梗塞用・ステント型血栓除去デバイス「Tron FX」、国内独占販売契約締結(12月)
- 脳動脈瘤治療用の袋状塞栓デバイス「WEB」、米PMA承認を取得(12月)

事業



12/22

全社的には、グッドデザイン賞が23年連続の受賞で、今回は5製品が入賞しました。一度に5製品が受賞したのは初めてです。

事業では、複数の製品の承認、発売がされています。

TISでは、バルーンカテーテル「Ryurei」を発売しました。この製品との相乗効果で、9月に発売した薬剤溶出型ステント「Ultimaster Tansei」の売上増を図ります。

ニューロバスキュラーでは、国内外で新製品の承認取得が続いており、さらなる売上増に貢献してくれると期待しています。

18年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタルラジアル用止血デバイス	日	FY19	CV	次世代人工肺	欧米 日	Q4 FY19
心臓	PTCAバルーン	米	済み		次期・血液モニター	欧米亜	済み
	PTCAバルーン	日 欧亜	済み FY19Q1	血管	胸部用ステントグラフト (低プロファイル)	欧	済み
	DES (Ultimaster Tansei)	日欧亜	済み		腹部用ステントグラフト (アナコンダ細径)	欧	済み
ペリ フェラル	ステント (TRI)	日米	FY19	医療器	静脈可視装置	日	済み
	PTAバルーン (TRI)	日米	済み	DM	パッチ式・インスリンポンプ	日	FY19上期
	PTAガイドングシース (TRI)	日米	済み	血液	次期・成分採血装置ソフトウェア	欧米亜	済み
	薬剤塗布バルーン	欧	FY19		自動製剤化装置・新ディスポ	欧米亜	済み
脳	中間カテーテル (Sofia EX)	欧米	FY19上期				
	ミニ・バルーン	欧米	FY19上期				



13/22

2018年度のパイプラインです。

概ね予定どおりに進捗していますが、愛鷹工場の出荷遅延対応に、心臓血管のエンジニアのリソースが割かれたことから、来年度にずれ込んだ製品が一部あります。

参考資料

四半期の動き

(億円)

	17年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	18年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上収益	1,523	1,508	1,430	1,420	1,586
売上総利益	832 (54.6%)	807 (53.5%)	799 (55.8%)	747 (52.6%)	876 (55.2%)
一般管理費	438 (28.7%)	459 (30.4%)	435 (30.4%)	435 (30.5%)	450 (28.4%)
研究開発費	107 (7.0%)	124 (8.2%)	113 (7.9%)	124 (8.8%)	123 (7.7%)
その他収益費用	6	- 4	8	29	6
営業利益	294 (19.3%)	220 (14.6%)	259 (18.1%)	217 (15.3%)	309 (19.5%)
調整後営業利益	327 (21.5%)	274 (18.1%)	305 (21.4%)	248 (17.4%)	359 (22.6%)

四半期	USD	113円	108円	109円	111円	113円
平均レート	EUR	133円	133円	130円	130円	129円

 TERUMO

15/22

18年度Q3累計 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	354 (-13%)	2,056 (+4%)	623 (+2%)	919 (+5%)	267 (+5%)	247 (+3%)	2,410 (+1%)
うちカテーテル※	266 (-14%)	1,666 (+4%)	501 (+2%)	711 (+6%)	249 (+5%)	206 (+3%)	1,932 (+1%)
ホスピタル	978 (+4%)	281 (+8%)	70 (+13%)	62 (+10%)	19 (+15%)	131 (+3%)	1,259 (+5%)
血液システム	90 (+7%)	676 (+1%)	189 (+3%)	316 (-0%)	42 (+2%)	129 (+4%)	766 (+2%)
合計	1,422 (-0%)	3,014 (+4%)	882 (+3%)	1,297 (+4%)	328 (+5%)	508 (+3%)	4,436 (+2%)

※ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く前年比伸長率



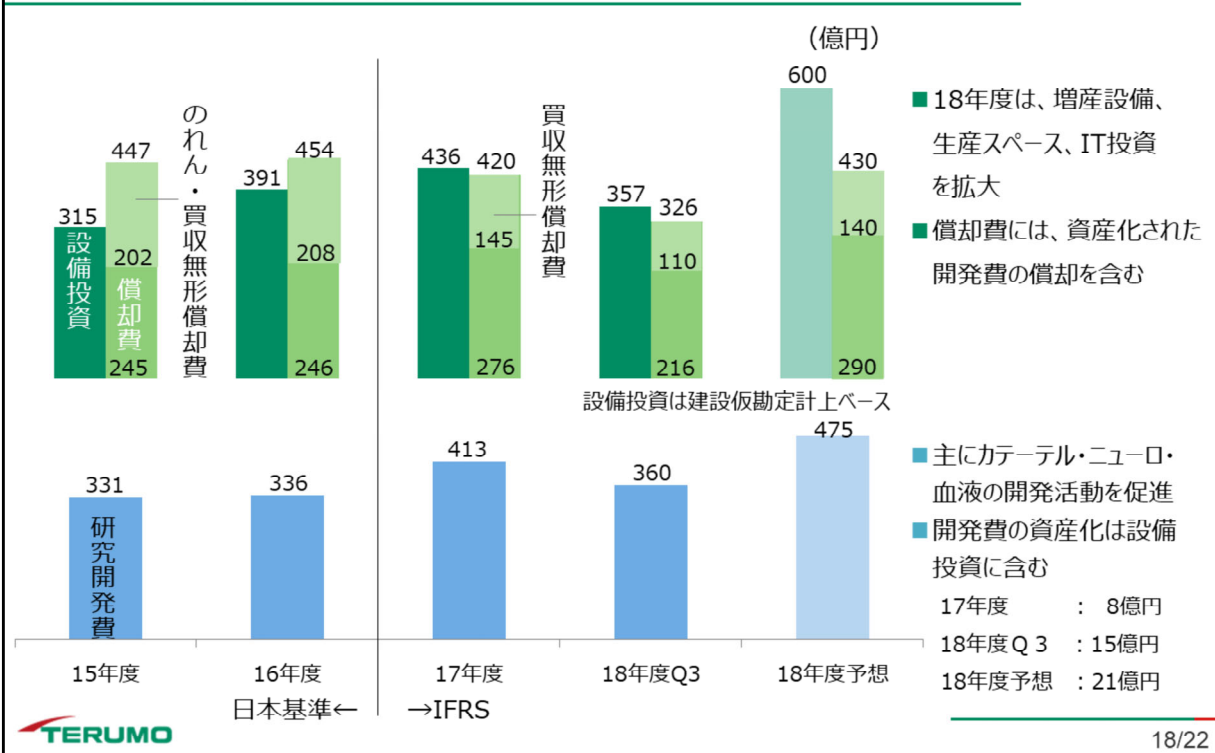
16/22

販管費

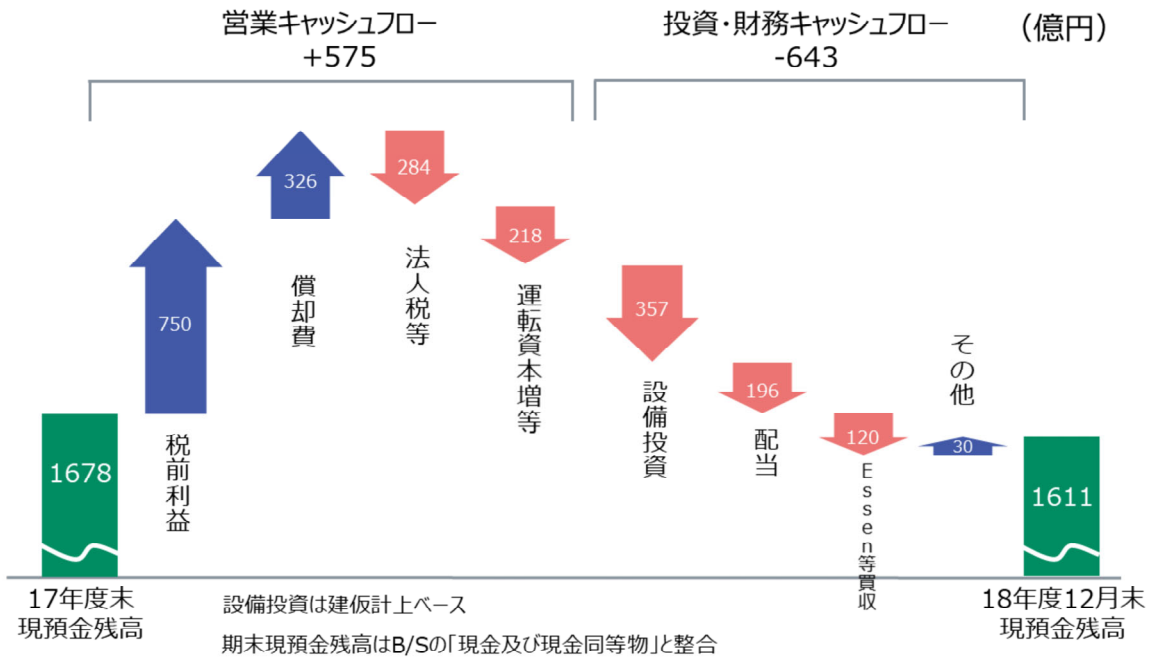
(億円)

	17年度 Q3累計	18年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	626	655	+29	+5%	+5%
販促費	126	133	+7	+6%	+6%
物流費	94	101	+7	+7%	+8%
償却費	106	104	-2	-1%	-1%
その他	300	327	+27	+9%	+9%
一般管理費計	1,252 (28.7%)	1,320 (29.8%)	+68	+5%	+6%
研究開発費	289 (6.6%)	360 (8.1%)	+71	+25%	+25%
販管費合計	1,541 (35.3%)	1,680 (37.9%)	+139	+9%	+10%

設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	16	8	20
調整後営業利益	0	5	10

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	9	60	13	17	33

転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	3,853	5,009	13.0百万株
2021年12月	500	0.0%	3,853	5,009	13.0百万株
計	1,000				25.9百万株

■ 転換状況 (2019年1月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	489.4億円(97.88%)	12.7百万株(3.34%)
2021年12月満期	236.2億円(47.24%)	6.1百万株(1.61%)
計	725.6億円(72.56%)	18.8百万株(4.96%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

・自己株式の状況： 8.9百万株(2019年1月末時点、取得単価3,897円、発行済総数比2.3%)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。